

今泉みね みねづみ 奥醫師桂川甫周の娘。安政二年二月江戸築地生れ、  
 昭和十一年四月十日歿（八五—一九三七）。母久邇くわいは幕臣末村芥舟の姉。  
 明治六年舊佐賀藩士今泉利春に嫁す。昭和十年實子今泉源吉の主筆す  
 る皇道宣揚雑誌『のみくひ』に、蕨方醫師桂川家を始り、生家に出入りし  
 大柳河春（二等）當代の洋學者達との回顧談を口述寄稿し、歿後の十五年私  
 家版として刊行、翌年公刊した（『名こりのゆめ』昭和十六年十月五  
 日長崎書店）。うち金子光晴解説『名こりの夢—蕨方醫師桂川家に生れて』  
 （二十八年十一月十日平凡社『東洋文庫』）。

大利春は、弘化元年歌人満春の長子  
 に生れる。幼名播磨次郎、源治。幕  
 末副島種臣に従ひ平野國臣等と往來。  
 明治三年佐賀藩大屬、少參事等歴任  
 し、更に伊萬里縣權典事となり上京。  
 翌年依願免官して大隈重信邸内に寄  
 寓、築地梁山泊の一頁となつた。五  
 年司法省出仕も、七年征韓論により

辭職。尋ついで江藤新平の舉兵に連坐して檢束を受く。西南役では大東義  
 徹、有馬藤太等と謀つて大坂城占領を策すも露顯して下獄。その後大  
 東等と京橋に代言人事務所を開き、傍ら民權運動に従事。十九年檢事  
 に補せられ、各地に赴任、二十七年檢事正として鹿児島地方裁判所に

著任するも、十一月四日同地で歿す。

